

平和を願い、「山本美香写真展」開催

3月10日（火曜日）、杉並区役所2階区民ギャラリーでは、2012年8月20日に内戦状態が続くシリアのアレッポで、政府軍に撃たれて亡くなったジャーナリスト山本美香さんの写真展が始まりました。この企画は、70年前の東京大空襲の日にちなみ、平和の尊さを広く伝えることを目的にした展示会として、3月20日（金曜日）まで行われます。

山本美香さんは、1967年山梨県都留市生まれ。朝日ニュースターを経て、1996年からジャパンプレスに所属し、アフガニスタン、ウガンダ、チェチェンなど紛争地での取材やレポートを続けてきました。取材では、女性ジャーナリストとして、紛争下の現地の女性や子どもたちにスポットを当て、紛争の中でも歌ったり、恋愛をする姿を目にし、世界中に紛争の中でも、人々は生きなくてはならないし、たくましく生きていることを伝え続けました。



ジャパンプレスは、杉並区の荻窪に事務所があり、山本さんも荻窪に長く暮らしました。また、山本さんの死後、創設された一般財団法人山本美香記念財団（上荻1-5-2コロナビル6階）が、区内に事務所を構えていることもあり、今回の写真展を区内で開催することとなりました。

写真は、アフガニスタンやシリアなどの紛争地で山本さんが撮影したもので、地雷を踏んで足を失った子どもや電気も水もない家に暮らすお年寄りの姿が切り取られています。写真は27枚で、カメラレンズに向けられた人々の目が、自分たちはここで生きていると主張しているように感じる作品です。また、その27枚の中に、2枚だけ山本さん本人が写されています。その2枚とも、白い歯とやさしい眼差しが印象的で、世界の平和を願い、世界中に紛争や戦争の陰で、市民が暮らしていること。暮らせざるを得ないことを訴え続けた山本さんの人柄を感じる写真になっています。

写真展は、本日10日（火曜日）から、20日（金曜日）まで。14日（土曜日）と15日（日曜日）を除く、午前8時30分から午後5時までです。今から70年前の昭和20年3月10日、東京はアメリカ軍の大空襲を受け、多くの生命・財産を失いました。その犠牲者に哀悼の意を捧げ、世界の平和を願って、この写真展を開催しました。

【問合せ先】

区民生活部管理課：TEL 3312-2111